

中山間地域における地域医療及び生活・環境基盤再生のための地域マネジメント診断法の開発

Development of community evaluation system for innovation and restructuring in the mountainous region

グループ紹介

研究者：濱野 強(プロジェクト研究推進機構・講師)
研究分担者：並河 徹(医学部・教授)，平野 章二(医学部・准教授)，岩本 麻実子(医学部・助教)
武田 美輪子(医学部・研究員)，鎌田 真光(医学部・大学院生)
伊藤 勝久(生物資源科学部・教授)，米 康充(生物資源科学部・准教授)
廣富 哲也(総合理工学部・准教授)，河野 美江(保健管理センター・准教授)
塩飽 邦憲(医学部・教授)

Project Leader : Kuninori Shiwaku (Professor, Faculty of Medicine)
Principle Investigator : Toru Nabika (Professor, Faculty of Medicine)
Shoji Hirano (Associate Professor, Faculty of Medicine)
Mamiko Iwamoto (Assistant Professor, Faculty of Medicine)
Miwako Takeda (Researcher, Faculty of Medicine)
Masamitsu Kamada (Graduate School of medicine)
Katsuhisa Ito (Professor, Faculty of Life and Environmental Science)
Yasumichi Yone (Associate Professor, Faculty of Life and Environmental Science)
Tetsuya Hirotomi (Associate Professor, Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering)
Yoshie Kono (Associate Professor, Health Administration Center)
Tsuyoshi Hamano (Associate Professor, Research Project Promotion Institute)

概要

島根大学生生活習慣病コホート研究では、健康・診療、生活習慣、人間関係などの多様なデータ収集を行ってきました(島根大学のユニークな研究リソース)。本研究では、地理情報システム(GIS: Geographic Information Systems)を活用して、自然・環境、農村・農業、社会資源をはじめとしたデータとのマッチングを図り、汎用性の高いデータベース(多次元データベース)の構築と、中山間地域の問題解決への貢献を目指しています。このため、多様な専門分野の連携に基づく研究体制を組織し、有機的な連携による学際的、かつ実践的な研究を推進しています。

The goal of this project is to provide the methodology using Geographic information Systems and evidence that contribute to the sustainable development in Mountains region. We actively advance collaborative research, and take on a challenge of diversity issues such as healthcare, agriculture, forestry and fishery, and community management.

特色 研究成果 今後の展望

1. GISを活用した視覚化と地理的空間を加味した解析(特色)

島根大学生生活習慣病コホートのデータを基盤地図上に展開し、社会資源に関するデータを加えることで新たな情報発信が可能となります。図1は、生活習慣病治療者の受療行動の分布を示しています。二次医療圏を超えて近隣市町への受診が明らかであることを踏まえると、今後は二次医療圏を超えた医療機関間の連携や診療情報共有の仕組みの必要性を理解することができます。

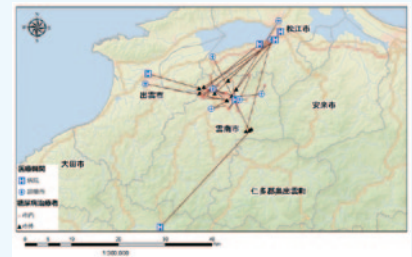


図1 受療行動分布

2. 農村集落特性と共助に関する検討(研究成果)

島根大学生生活習慣病コホートデータ(個人データ)と農林業センサス(集落データ・地図データ)をGISの空間結合によってマッチングを図り、多次元データベースの拡張を行いました。GISは、調査で収集された個人データを緯度・経度により参照し地理的な背景への関連づけが可能であることから、個人データ(点)と集落データ(面)の異なる次元のデータを同一の画面上に表示できることが利点です(図2)。分析の結果、農業生産活動を基盤とした文化・生活面での活動が、農業集落の共助(ソーシャル・キャピタル)の維持、形成に寄与していることを初めて明らかにしました。

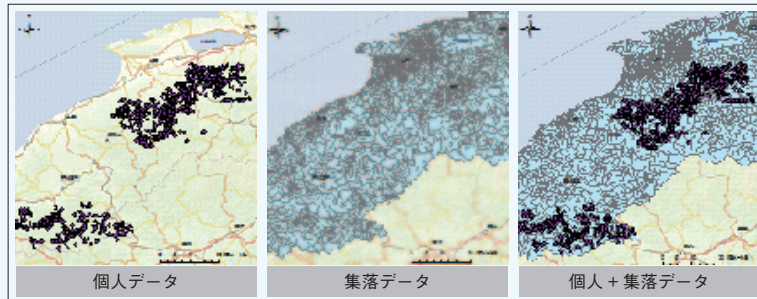


図2 データのマッチング過程

平成 22-23 年度農林水産政策科学
研究委託事業「地域特性を踏まえた
自助・共助・公助の総合的評価およ
び共助を支援する政策・施策の展開
方法に関する研究(研究総括者:塩
飽邦憲)」での研究成果。

3. 空間・時間軸に基づく検討(今後の展望)

中山間地域の産業構造やライフスタイル構造、さらに保健医療をはじめとした社会資源のネットワーク構造は、歴史的な経緯に依存しています。そこで本研究では、過去-現在-未来のダイナミクスを視野に中山間地域の問題解決を可能とする多次元データベースの構築を図っていきます。